

参考情報

<はりま勝原駅 はりまかつはらえき>

姫路市勝原区熊見にある、JR西日本山陽本線の駅である。当駅は姫路市の要望により開設した請願駅で、計画当初は2007年3月の開業を予定していたが、建設工事が遅れたこと等から、開業は2008年3月15日にずれ込んだ。

当地は1960年頃に、姫路市による電車区誘致の候補地として挙げられたことがあったが、電車区は網干駅西方に設置された(現在の網干総合車両所)。

駅の年表；

1997年(平成9年)2月：姫路市が一带を「新業務拠点地区」として位置付け
2000年(平成12年)9月：姫路市からJR西日本に新駅の設置要望書が提出
2001年(平成13年)6月：山陽本線英賀保駅－網干駅間に駅の新設が決定
2004年(平成16年)8月：当駅基本構想・基本設計完了
2005年(平成17年)11月：駅建設工事開始。仮駅名は「播磨勝原駅」であった
2007年(平成19年)9月：JR西日本が正式駅名をはりま勝原駅とすると発表
2008年(平成20年)3月：山陽本線英賀保駅－網干駅間に新設・開設

* 勝原駅(かどはらえき)は、福井県大野市西勝原にあるJR西日本・越美北線の駅

<勝原区 かつはらく>

姫路市南西部の地域で、「区」を名乗るものの特別区や行政区、地域自治区等に類するものではない。京見山南麓から山陽本線網干駅付近まで東西へ続く地帯だが、昨今は姫路の近郊住宅地として開発が進んでいる。

区の東端で広畑区と、南東部で大津区と、南西部で網干区と接する。また、区の北側一帯では揖保郡太子町に面する。東部は京見山南麓の細長い一帯。南北に走る県道421号大江島太子線を西へ過ぎた辺りから田園地帯となり、大津茂川が南流する。

歴史；地名の出現は古く、「播磨国風土記」によれば、韓の国から渡来した呉勝(くれのすぐり)が居住したことから「すぐり部」と称された、とある。この表現や読みが転じて「かつはら」と呼ばれるようになったという。戦前までは揖保郡に含まれ「揖保郡勝原村」だったが、終戦間もない1946年3月、他市町村と共に姫路市と合併した。現在勝原区を名乗る地名は、姫路市との合併時に勝原村であった区域の名残である。

勝原区内の自然；京見山(標高216.1m) 夢前川沿いに北から続く山並みの一角。山頂は広畑区・勝原区・揖保郡太子町の境界になっている。
檀特山(標高165.1m) こちらは残丘。ここも山頂で勝原区と揖保郡太子町を分けている。
朝日山(標高68.0m) 大津茂川

以上